地域に学び，地域を愛する個が育つ社会科学習

～ひとり学習の充実と全体学習での磨き合いを通して～

梶本　久子

地域に学ぶとは，教材との出合いを地域にかかわることから見つけ出し，地域の「ひと・もの・こと」とのふれあいの中で社会的事象を考えるきっかけをもたせることだと考える。これからの社会には市民がこれまで以上に主体的に参画することが求められている。そのためには，地域との主体的なかかわりをもとうとする子どもを育てることが必要である。そこで，身近な地域とのかかわりの中で見出したよさを実感し，地域との主体的なかかわりをもとうとする子ども，すなわち地域を愛する子ども（個）を育てることを目指して研究を進めた。その結果，子どもたちは社会科の学習を通して“和歌山（地域）を愛すること”の大切さを学んだ。本実践でも，教材との出合いを大切にし，子どもたちが抱いた疑問や発見から生まれた問題を取り上げた。自分たちのまちの政治に対し切実な願いをもち，教材と対話しながら学習を進めたことにより，一面的・主観的な見方，考え方から，多面的・客観的に深化していった。

キーワード：地域，対話型学習，ひとり学習，主人公意識，役割体験

１．「地域を愛する個」とは

社会科を学習していくうえで，国家，社会に対して愛情をもつということは，国家や社会の意味や働きの理解を深めることなくして，誇りや愛情は育たないと考えている。地域社会においても愛情や誇りをもつようになるには，まず，地域の「ひと・もの・こと」に目を向け，じっくり観察し，地域のよさを理解することではじめて，地域社会への誇りを持ち愛することができる。社会の意味や働きの理解を深めるためには，個が主体的に追究し，学び合い，より深まっていく授業が大切であると考えている。その授業の基盤となるのは一人ひとりの追究していく意欲である。自ら学ぼうとする意欲があってこそ自分らしい学習ができ，より確かな見方や考え方ができ，理解が深まると考えている。そのためには，一人ひとりの追究する意欲を引き出すことが必要である。「地域に学ぶ」ことで「ひと・もの・こと」と直接触れ合うことができ，体験的な活動が組み入れやすくなり，追究意欲を高めていけるのではないかと考えた。

「地域に学ぶ」ことのよさとは次のように考える。

- 子どもの学習活動の対象として，適切な距離・範囲であり，直に経験できる
- ひとり学習（追究）する手段について多様性をもつ。
- 親近感，共感をもちやすく一人ひとりの主人公意識が高められる。

この３点をもとに，今までの地域教材の内容や活動方法を見直し，地域の特性を十分に生かした学習を展開することが必要だと考えた。

また，６年生の発達段階において多くの人と出会うことは大変有効であると考えている。地域の「ひと，もの，こと」と直接触れ合うことにより，出会った多くの方々が，学習を高めてくれる貴重な指導者になってくれる。そのことが子どもたちにとって，大きなエネルギーになる。こういった出会いの一つひとつが，人々の願いや工夫を知るきっかけになり，その思いに応えようと子どもたちも，追究姿勢に深まりが出て，学び合うことができる。

６年社会科の政治単元においても市民性の育成，すなわち，「地域社会の一員としての自覚」をもたせるためにも，地域素材の教材化は欠かせない。地域へ働きかけ地域を豊かに創っていくことで，地域を愛し誇りを持つ個に育てていきたいと考えている。

２．ひとり学習と全体学習

２．１．ひとり学習と全体学習をつなぐ

社会科において「学びの質の高まり」とは，ひとり学習と全体学習が相互に関連しながら，さらに深めていくことだと考える。６年生になり，ひとり学習は今までのインタビューを中心としたものから，インターネットや図書をもとにしたものへと変わっていく。しかし，調べるだけで満足する子も多く，考察までできる子どもは少ない。また，歴史や政治を自分とのかかわりとして捉えることは少なく，歴史や政治上の出来事はよそ事であるようにとらえている子も多い。年間を通して，地域素材の活用や生の声を聞き取る活動を大切にし，子どもたちが自分とのかかわりから事象がとらえられるようにしたいと考えた。また，全体学習では，進んで自分の意見を発表する子どもが限られており，考えがあっても自信をもって挙手できず，積極的に発言しようとしない子どもが多いことも課題である。学習活動を工夫することで，資料活用の力の育

成や話し合い活動の活性化を図る指導を行っていく。また，ひとり学習の充実を図ることで，全体学習では，自分の考えを修正したり，深化させたり，発展させたりしながら，自分の考えをより深めることができる。そのことにより，さらに，ひとり学習の課題の必然性が明確になり，意欲的に調べ活動ができるようになると考えている。また，意欲的に追究し，自分で問題を発見し，問題解決の過程でいきいきと学び合うことで，自分を見つめなおし，未来への生き方へとつなげていける子にさせたい。

２．２．全体学習からひとり学習へ

自分の考えを発信することにより，考えを明確にすることができる。そして，友だち相互に刺激し合う中で，自分の考えを修正したり，深化させたり，発展させたりしながら，共通点や相違点を探し，課題の共有化ができる。さらに，調べたことを発表した後に話し合いをすることにより，自分の考えをより深めることができると考えた。話し合いの中で出てきた個々の課題を発表し合い，同じ内容毎に分類し，課題を確かめ合うことで，クラスの学習課題が考えやすくなり，調べる課題の必然性が明確になり，意欲的に調べ活動ができるようになると考えている。

２．３．ひとり学習と全体学習をつなぐ支援

・個が生き，個が育つために

個が生き，個が育つためには，絶えず子ども一人ひとりに目を配り，見とり，評価すること，そして，その評価に基づいて，その個をどう育てたらいいかという明確な視点をもち，具体的な姿を思い浮かべて個に応じた指導を繰り返すという姿勢が重要である。主体的に学習にかかわることができない個に対しては，積極的に手を差し伸べ，その個のよさや思いを見とることで適切な支援をしていこうと心がけた。そして，その個が調べてきたものを資料として全体に提示し，「みんなの学習に生かされている」という自信をもてるようにした。また，個を見とることにより，具体的な支援の方向性が見えてくる。個が生き，個が育つための土台は，子ども理解にあると改めて感じている。

・グループ学習の中で

一人ひとり，またグループごとに学びのプロセスや活動状況，ふり返りカードをファイリングするようにし，子ども自身がひとり学習の計画を立てたり，自分の学びを確かめたり，観点別に自己評価を行ったりするようにした。また，ワークシートやノートでの対話，学びの途中の記録，発言，やりとりの中からグループや個に応じた支援を続け，それらを通して，学習意欲を喚起できるようにすることが次へのステップになると考えた。そして，育みたい力に照らして，グループや個人カルテを作り，できるだけ個々の学びを見とり，記録し続けるようにした。子どもがきらりと光ったとき，それを見逃さないようにするとともに，常に支援の方向を探ることで，子どもが何を学び，どのような学び方を身に付けたのか，見方，考え方，感じ方はどう変わったのかを見届けるようにしたいと考えている。

３．授業実践

３．１．単元目標

・地方公共団体の働きや議会・行政・国の支援・住民の関係や政治の役割について，調査したり資料を活用したりして調べ，政治の働きに関心をもつ。
・一人ひとりが主権者としての自覚を持ち，進んでまちづくりに参加しようとする態度を身につけることができる。

３．２．単元計画（図１）

３．３．政治と自分をつなげて

本単元は，学習指導要領第６学年の内容（２）ア「国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること」に基づいている。できるだけ身近にある「自分たちのまち和歌山」について考えることで，自分たちのまちの政治に対し切実な願いをもつことができる。問題を解決していく中で，政治の役割が理解できるだろうと考えている。学習内容を効果的に理解させるために，身近な和歌山県の県議会を見学することから，興味関心を喚起した。「政治の学習」の入口として「和歌山県の課題や将来」を取り上げ，住民や県庁への聞き取り，大学生ボランティアとの学び合いを通して，地域住民の願いを実現していく知識や方法を学び，進んで地方自治に関わっていくことの大切さを知ることができると考えた。政権交代という大きな変化の中，「政権交代」「マニフェスト」「○○党」など，子どもたちの話題

に政治のことが多く上っている。世の中の変化を肌で感じている「今」を逃さず，県政や国政に興味を持たせたいと考えたのである。

3．4．「地域に学ぶ」ことのよさ

本単元では地域に学ぶよさをいかせた場面が多くあった。子どもの作文を中心に５例挙げる。

・県議会へ

本議会場に入った瞬間，子どもたちは独特の静かな雰囲気に圧倒され緊張感でいっぱいだった。県議会という普段見ることのない場所に行けたことに興奮し，また，修学旅行で見学する国会を想像しながら比べ，これからの学習に対し期待をしていた。

> テレビで国会中継をみると，「反対！」とか言っているのをみるけど，県議会だと，質問してる人と知事さん以外しゃべらないのかな？今日は知事に会えたし，普通はみんな行かないところにいけて，よかったなあって思いました。でも，その分ハテナも増えました。たくさんあって，自分でもびっくりしました。次の社会はどんなのか楽しみです（A児）

・「和歌山県長期総合計画」について

和歌山県が抱える問題点や現状について県庁の方に来ていただいて教えてもらった。子どもたちにとっては初めて知る和歌山県の現状に驚くとともに「何とかしなきゃ」という気持ちになったようだ。

> 全国でも少子高齢化ってテレビで話しているのは知っていたけど，和歌山がそんなに深刻だとは知らなかった。県に負けない計画を６Aでも出していきたいと思います。今日の話を聞くまでは観光に力を入れるといいなと思っていましたが，福祉や医療で困っている人の役に立つ計画をしたいと思いました。これから私たちが頑張ることで何か変わるんじゃないかなあ。（O児）

子どもたち一人ひとりが「和歌山県の将来」を考える上で，特にどこを大切にしたいかということについて考えるきっかけになった。

・県議会へハテナを聞きに

それぞれ議員席についていた子どもたちは，質問をするたびに自分の席のマイクがオンになって声が響くことや，細かいルール，実際の速記の文字など本物を目の当たりにし，喜んでいた。議会事務局の方からは「しっかり勉強して今度はあなたたちがこの議員の席に本当に座ってください。そして未来の和歌山を大きく変えてください。」という言葉をもらった。その言葉に大きくうなずき，自分たちの６A議会へ思いを馳せていた。

> 今日の探検レポートは，的場さんの話が分かりやすかったから書きやすかったです。この前，生の知事さんが座っていた椅子に座れたのも結構うれしいものだった。みんなの質問や話を聞いていて，前に不思議って思ったことがわかるのも面白かったです。それをレポーターとして書いてみると自分で結構，上手くまとめられてよかったです。（A児）

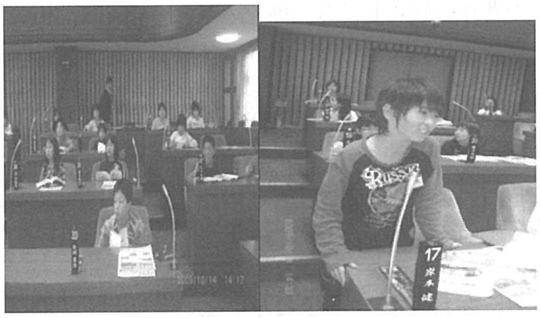

図２　議場での質問，話し合い

・ひとり学習で

本単元になって，インタビュー，アンケート，ゲストティチャーからの話などいろいろな方法で学習を進めることができるため，１学期以上に意欲的に調べ学習をする子が増えてきた。また，身近にある県庁に，直接，自分たちでアポイントを取り，聞き取り調査に出向くなど，自ら学習を進め，熱心に調べ学習に取り組む姿勢が見られるようになってきた。

> 県庁に行ってすごく勉強になった。和歌山県の林業について林業課に行って聞いたら，丁寧に教えてくれてうれしかった。次に漁業課にも行った。今度は和歌山県の将来や問題点について聞けたからうれしかった。５年生までは調べ学習って言ったら，大体PCだったからわからんことも多くて面倒くさかった。外でインタビューするのは，だんだん慣れてきたし，PCで調べるより簡単で分かりやすいからインタビューがいいです。E児

和歌山県庁の各課への聞き取りだけでなく，大学生のボランティアや自分の周りの１人暮らしの老人の家にインタビューに行ったり，老若男女を問わず，住民の聞き取り調査し，いろいろな立場の人の思いに気づく子も出てきた。取材を進めるうち，住民のどのような考えや願いが反映されて政治が行われているのか，県・国の政治はどのようなつながりがあるのか等について調べる子も出てきた。

図３　県庁や大学生への聞き取り調査

・「立会演説会」各党のマニフェストをアピール

> 待ちに待った６Aカフェでの立会演説会だった。TVや新聞も来ていて緊張したけど，マニフェストの中身にはすごく自信があったので精一杯演説をした。
> 知らないおじさんが「20年後，知事になったらえ

えんちゃう？」って言ってくれた。和歌山のこと真剣に考えてたからちょっとそんな気になりそうだった。楽しかった。（T児）

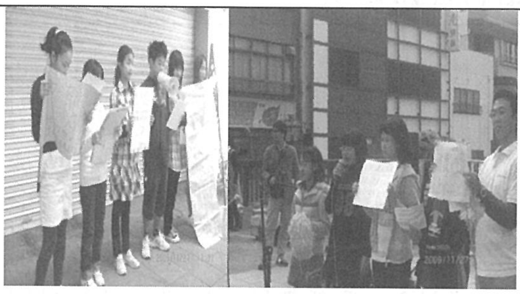

図４　ぶらくり丁で「立会演説会」

４．単元の考察

４．１　ひとり学習を中心に

子どもたちのひとり学習での成果が，多くの子の具体的な数字や政策を例に出す根拠ある発言へとつながった。一つずつ確かなものにしていくため，県庁の林業振興課，漁業推進課，経営支援課，農林水産総務課，観光課，教育委員会，長寿社会課，企画総務課など多くの課へ何度も訪ね，交流し確認していった結果であると感じた。また，そういった活動の中で，県庁で働く人々の思いや願いに気づくことができ，多様な立場の人の思いや各課の願いを訴える発言へとつながった。また，共通の課題に対して，いくつかのグループがそれぞれの方法で調べ，分かったことを互いに発表したり，話し合ったりしながら，お互いの考えを深めることができた。

４．２　子どもの疑問が問いに変わるとき

一人ひとりの調べ学習の驚きや疑問をテーマごとに教室に常掲し，子どもたちがその中からさらに調べたり，意見交換しあったりする場を多く設定するようにした。教材との出合いを大切にし，子どもたちが抱いた疑問や発見から生まれた問題を取り上げたことで，子どもたちの追究意欲が高まった。本時でも，今までの学習を振り返って，掲示物（前時までの学習の足跡）を使って説明したり，比べたりする姿や，県庁の方から頂いた具体物を提示しながら分かりやすく説明する姿も見られた。

４．３　６Ａ議会で役割体験

議長中心に子どもたちで進めていく６Ａ議会という設定は，子どもたちが議員になりきりながら対話を深める場になった。「○○議員のお考えをお聞きしたい」「△△党のマニフェストでは・・」など国会の雰囲気そのままに白熱した対話が続き，授業を楽しんでいる様子が見られた。どの子も主人公意識を持ち，関心をもって教材と対話しながら学習を進めることができたのではないかと考えている。

本単元を通して，さらにクラス全体に対話型学習が大好きな雰囲気を作ることができたように思う。意見交換の際，賛成派と反対派に分かれた話し合いを位置付けていたが，各自が自分の考えや願いの根拠を持ち，今までの学習を振り返りながら授業に臨むことで，どの子も授業を楽しみにし，自分の考えをしっかり出して，活発な話し合いになった。単元を通し，個人の振り返りカード，作文等の活用により，他者との見方・考え方の違いや自分自身の見方・考え方の変容に気づくことができ，追究姿勢にも変化がでてきた。また，次の時間の課題を見つけ，自らの学習を進めていくこともできた。

５．成果と課題

私は社会の勉強で，自分の家の人に「和歌山の未来」を聞いても「そんなん考えたことない」って言われてたけど，県庁の人がいつも親切にインタビューに答えてくれたり，熱く語ってくれたりしたので，大人でも，県庁の人は真剣に和歌山のことを考えているんだな，そして，優しい人がいっぱいいるんだなって思いました。それに，カフェの原さん（大学生ボランティア）からも「和歌山をなんとかせなあかん！」って熱い思いを感じました。これからはわたしが，そんなふうに和歌山を変えていける人になりたいです。そして自分が知っていることをみんなに伝えていきたいです。カフェでも多くの人に伝えてたいです。だからそのためにもこれからもそんな勉強をしたいきたいです。（A児）

政党としての意見やそれぞれの考えを理解したり，疑問に思ったりしたことを話し合うことで，自分の目線で「望ましい和歌山県の姿」を考え，自分は県民の一人であると共に，まちづくりの主役であるという認識を持った。進んで地域にアプローチできる社会人として成長していくためのきっかけになった子もいたことをうれしく思う。子どもたちは社会科の学習を通して“和歌山（地域）を愛すること”の大切さを学んだ。学習が終わった今でも，子どもたちの和歌山の未来に対する思いは強く，総合的な学習として，その学習を継続している。これからも，和歌山の将来を大切に考え，自ら行動する態度が育っていくことを願っている。社会科の学習で学んだことを生かして，地道に，地域を愛する輪を広げ，続け，深めていくことができればと考えている。

しかし，学習が深まれば深まるほど，子どもたちの中には難しすぎて，子どもらしい意見が出しにくい雰囲気になっているグループもある。教師が一人ひとりの学びの何を支援・評価しなければならないかをもう少し明確にし，授業実践に取り組んでいけるようにしていきたい。

参考文献

文部科学省「小学校学習指導要領」2008年３月告示
北俊夫「新教育課程と社会科の授業構想」明治図書
和歌山大学教育学部附属小学校紀要 No. 33　2009